

16. 搾乳牛の行動調査に基づいたカウコンフォート改善指導

東部振興局・研究普及課¹

○藤田和男・森本慎思¹

○目的

現在の酪農業においては長らく続く牛乳消費と乳価の低迷、飼料の高騰により収益性が悪化し、厳しい経営が続いている。収益性を上げるためには牛の生産性を向上させることが必要であることから、牛の行動を調査し、飼養環境の快適性（カウコンフォート）を向上させるための改善指導を行った。

○調査牧場の概要・ストールの設置形式及び材質・調査月日

大分県酪日出支所管内のフリーストール牛舎3牧場

A牧場	経産牛107頭	片側1列×2群	砂	8月21日
B牧場	経産牛53頭	頭合わせ×1群	ゴムマット+オガコ	8月27日
C牧場	経産牛91頭	頭合わせ×3群	ゴムマット+オガコ	9月5日

○調査方法

- ・調査時間は搾乳前～夜作業終了時 約15時間。
- ・30分ごとに起立・横臥・採食・飲水の頭数をカウントし、起立と横臥についてはストールと通路で区別してカウント、ストール上の起立・横臥は見取り図に落とした。
- ・行動調査とあわせて作業内容とその時間を記録した。

○結果

A牧場：全横臥率44% ストール横臥率42% 採食率27% (2群平均)

他2牧場に比べストール横臥率が高く、横臥している時間も長い。砂ベッドであることとベッド上に細霧装置+扇風機があること、ストール前方に障害物が無いことによりストールの快適性が高いためと考えられた。

B牧場：全横臥率45% ストール横臥率31% 採食率25%

A牧場に比べストール横臥率が低い。ストールが頭合わせで下前方を鉄骨が横断していること、ストールの床がゴムマット+オガコで固いこと、扇風機はストール後端と通路の境界上にあるなどストールの快適性が低いためと考えられた。

C牧場：全横臥率48% ストール横臥率31% 採食率36% (3群平均)

飼槽側のストール列は高い横臥率を示すが、その反対の列の利用率は低い傾向にあり、1群ではほとんど利用されていない状況であった。また、TMR給与時、搾乳終了後における採食率が高いことが特徴的であった。

注) 全横臥率は調査時点で通路またはストールに横臥していた頭数の割合

ストール横臥率は調査時点でストールに横臥していた頭数の割合

採食率は調査時点で採食していた頭数の割合